

丹波縄文の森塾 第1日目活動報告 (令和5年5月20日)



5月20日(土)曇り

令和5年度の丹波縄文の森塾が開講しました。定員の1.5倍を超える応募者から抽選で選ばれた丹波市と丹波篠山市内の小学3年~6年の30人が参加しました。



開塾式では、丹波の森公苑事業推進部の武部治仁部長から、この丹波縄文の森塾は、初代公苑長の故河合雅雄さんの強い思いで平成14年から始まり、今年で22回目になること。この1年間の活動で、①里山の自然を五感で感じてほしい。②いろいろなことに挑戦してほしい。③縄文の人たちように、工夫をする力、「知恵」を付けてほしい。④そして、体験したことを、家族の方に話してあげてほしいと挨拶がありました。

まず、リョウブの木片を使って、世界にひとつしかない手作りの名札づくりに取り組みました。



次に、杉本義治サポーターの指導で、「田植え」を体験しました。田植えをしやすいように、代かきしてやわらかくなった田に長靴で入って、昔の人のように2本の指で、丁寧に苗を植えました。

ぬかるみに足をとられると、「こける～」と悲鳴をあげる塾生もいました。慣れてくると「コロコロ」と呼ばれる三角定規を上手に使って、苗を植えることが出来ました。秋には、稲刈りをして、脱穀の体験もします。



昼食です。今日は、みんなが大好きなカレーライス。「美味しい」と言って、2杯、3杯とお代わりをする塾生が続出しました。



午後からは、芝生広場で、まなあそ代表の濱畑直也さんの指導で「じゃんけんあそび」や「人間知恵の輪」、「龍のしっぽ取り」などゲームをとおして、仲間づくりをしました。

鳥の鳴き声の聞こえる里山に、元気いっぱいの塾生の歓声が響きわたりました。